

日本最大級のため池

# 満濃池

Mannoike



香川県内のため池の数は

登録されているだけで約1万4,600ほどあります。

香川県は雨が少ないうえ川が短く急なので

農業用に使われる水は52%もため池にたよっています。

そのため下流には数多くの農業用のため池が造られているのです。

満濃池はまんのう町に位置する日本最大級の農業用ため池です。



香川県 まんのう町



プラチナブルーを  
みたことがありますか

国営讃岐まんのう公園

神野古墳群

神野一号窯跡

香川県満濃池森林公園

余水吐け

護摩壇岩

満濃池取水塔

堤防

空海青年像

かりん亭

かりん会館

神野神社

御柱

神野寺

満濃池樋門

ほたる見公園

ミニ八十八ヶ所

満濃池  
めぐり

お勧め遊歩コース

満濃池の資料も展示してある**かりん会館**に車を止めて出発。**神野神社**の鳥居をくぐり、**護摩壇岩**と**取水塔**をカメラにおさめます。そして**神野寺**の裏から**ミニ四国八十八か所**でお遍路さん気分になり、その先の**ほたる見公園**へ。**樋門**を見て少し休憩。少し坂を上がって**かりん亭**で手打ちうどんを仕上げに食せば満濃池めぐりの完成です。



護摩壇岩

空海が護摩を焚いて、工事の無事を祈ったところです。



ミニ四国八十八か所

心にやすらぎを求めて八十八箇所のお遍路をしたいと思われる方に、四国霊場のミニ霊場をご紹介します。一巡が約一時間で巡拝できますし、それぞれの箇所には、各霊場の砂が捲かれて各札所の本尊が立ち並んでいます。



かりん会館

満濃池の資料を展示しているほか、休憩所としてもご利用いただけます。ガイドを予約すれば、満濃池の詳しい話が聴けます。

TEL.0877-75-0200

すぐ下のうどん店「かりん亭」の職人の指導のもと、うどん打ち体験もできます。(要予約)



かりん亭



かりん亭の手打ちうどん





## 日本最大級の貯水量



満濃池は人が造ったもので、水をためているダムです。大きさは日本最大級で、手を広げたような形の池の貯水量は、オリンピックプールの6,160杯分に相当する15,400,000m<sup>3</sup>。周囲は約20km、水深約22m、灌漑面積3000haになります。今から1,200年前に弘法大師空海が考案し、今も使われている仕組みに、水の圧力を分散させるアーチ型の堤と水位が一定以上とならないよう、余分な水を下流に放流する余水吐きがあります。



満濃池が満水となり、余水吐きから金倉川へ流れ出るときにだけ現れる幻の滝



神野寺は空海が建てた別格17番札所で空海の銅像があります。



ゆるぬぎの賑わい

## 満濃池の歴史



701～704年（大宝年間）

さぬぎ こくしゅ みちもりのあそん  
讃岐の国守 **道守朝臣**がつくる。

821年（弘仁12年）

さがてんのう こうぼうだいしこうかい  
嵯峨天皇の命令で**弘法大師空海**が再築。

1184年（元暦1年）

洪水により堤防がこわれる。  
約450年間修理されないままになり池の中に人が住み、「池内村」となる。

1628～1631年（寛永5～8年）

にしじまはちべえ  
**西嶋八兵衛**が再築。

1849～1853年（嘉永2～6年）

当時、樋管（ゆる）は木製であったため、何度も底樋・**豎樋**を取り替えなければならず、**長谷川喜平次**が底樋を木製から石造りとした。

1854年（安政1年）

大地震により堤防がこわれる。

1869～1870年（明治2～3年）

まつざきしげえもん はせがわさたろう いずみとらたろう  
**松崎渋谷衛門**らの協力で、**長谷川佐太郎**や**泉虎太郎**らが修理。

（貯水量5,846,000m<sup>3</sup>）

1905～1906年（明治38～39年）

かさあげ  
第1次嵩上工事（0.87m）  
余水吐修理。（貯水量6,678,000m<sup>3</sup>）

1914年（大正3年）

レンガ造りの円形取水塔（配水塔）にする。

昔の赤レンガでできた取水塔

1927～1930年（昭和2～5年）

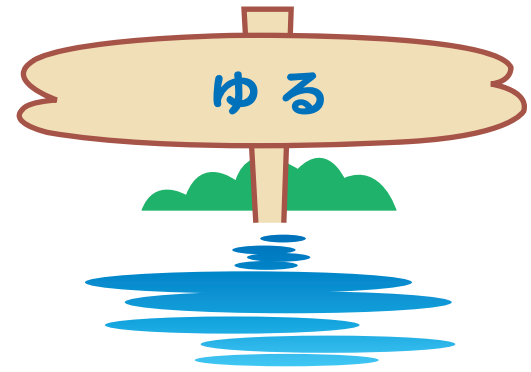
第2次嵩上工事（1.5m）  
さいたがわ  
財田川からの隧道工事（400m）を実施。  
（貯水量7,800,000m<sup>3</sup>）

1940～1959年（昭和15～34年）

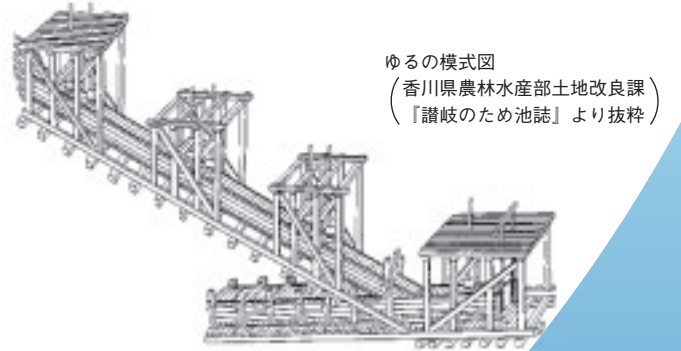
第3次嵩上工事（6.0m）及び土器川からの導水路工事（4,668m）を実施し、貯水量は現在の15,400,000m<sup>3</sup>となる。



## ゆる



かりん会館で展示している「ゆる」は明治から大正3年まで使われていたものです。「ゆる」とは、池の取水栓のことで、毎年6月中旬に行われる「ゆる抜き」は、満濃池の水で田植をするために水門を開ける行事です。当時は木製の「ゆる」を使い、人力で「ゆる」を抜いていました。しかし、木製の「ゆる」は30年から50年で腐ってしまうため、取水塔に変わりました。



ゆるの模式図  
（香川県農林水産部土地改良課  
『讃岐のため池誌』より抜粋）

これは昔のゆるの設計図で、上から順に抜いていく仕組みです。冷たい水が稲にとってはよくないからです。

かりん会館に  
展示されている  
「ゆる」



## アクセス

### 車

〈岡山・愛媛・高知方面から〉  
高松自動車道 善通寺ICより車で約30分  
〈徳島方面から〉  
徳島自動車道 美馬ICより車で約55分

### 鉄道

〈JR利用〉  
琴平駅よりタクシーにて約15分  
〈琴電利用〉  
琴電琴平駅よりタクシーで約20分  
岡田駅よりタクシーで約15分

### 空路

〈高松空港利用〉 タクシーで約55分



## お問い合わせ

- ・かりん会館 (水曜休館)  
TEL.0877-75-0200 FAX.0877-73-2555
- ・まんのう町産業経済課  
TEL.0877-73-0105 FAX.0877-73-0127

満濃池HP : [http://www.town.manno.lg.jp/manno\\_pond/pond\\_top.html](http://www.town.manno.lg.jp/manno_pond/pond_top.html)

